

(一面からのつづき)
労働運動における「春闌方式」そのもののべの問題はともかく、日経連の言う「生産性基準原理」に基づく賃上げ幅の決定ということとは、不況を理由とする「所得政策の確定」と、またその枠内への労働運動の統合を目的るもので、述べた産業再編成遂行上の資金政策の確定と、またその枠内への労働運動の統合を目的るものである。

首都圏再する反権の激発人

首都圏再編に抗する反権力闘争の激発人

(正面からのつづき)
労働運動における「春闌方式」そのもののべの問題はともかく、日経連の言う「生産性基準原理」に基づく賃上げ幅の決定ということは、不況を理由とする「所得政策の導入」等の懐柔と相まって、先に述べた産業再編成遂行上の賃金政策の確定と、またその枠内への労働運動の統合を目指むものであることは明白である。「春闌は、方針図もちあわせているものではない。今年の場合も「鉄鋼」発回答への右へならえは、既に既定の事として一般的にうけとられてゐるかの風潮がある。

ことは重要である。一つには大衆が直接的に自己の利害を表現する力を持ちはじめていることであり、「一つには「社共共闘」そして、『革命的議会主義』（国民政黨）路線＝第二インター化への道を革新自治体一幻想を通じて固定化させ、権力の攻撃の質を不明確にしていくこととしていることの為である。大衆の政治行動への直接的な欲求を選挙べと収納することでは、大衆の政治行動の質を低め、拡散させこそすれ、決して高めるものではない。例えば公審問題などという形で問われてくる事を大衆自からに経験させることを肯定するのか、或いは自治体の介入を権力への対決へと発展させるのを、権力との対決にまで要請される政治の質とのこのギャップ選挙は埋めることが出来ず、固定化してしまうのだ。

五・一八一一九沖繩關
争に總結集せよ！

同、元。一九新入生歓迎集会
八沖自闇争を貢散す

新入生歓迎大會

現在、我々は三里塚で開催される恒常的闘争を団結せよ!!

NATO・安保体制

そしてこの間、共産同再建準備委に結集し、階級的労働運動の端を荷担つている都職労働者評議会の方からあいさつがあり、「都における闘いが、美濃部を中心とした革新＝近代合理主義が日本のその先兵としての地方自治体合理化と再編として機能してり、その粉碎に向けた闘いの質展開は、都知事選における『美濃部が稟野か』を超えて、日帝の動向と対決しなければならないものとしてあった事。従つて、の間に、三里塚一沖縄をめぐつて諸衆派のあれこれの革命的言語が、都厅における美濃部をめぐるの闘いが階級的闘いとして貫徹されているかがはつきりした」事が報告され、最後に、都厅労働組合が三里塚一沖縄をめぐる闘いを訴えられ、新入生の我戦列への付集が呼びかけられた。

続いて戦線報告に移り、立正大学と明治大学の同志から強いあいさつがなされていった。

中でマッセントを含む、暴力抗争として闘い抜く事が決意表明してなされた。

又、共産同再建準備委員会を代表して松本礼二同志が「この間人共産主義者同盟の党内・党派闘争は、主要に、階級形成・戦略にたっての階級独裁にいたる現在に

主塙に団結小屋と本部の戦闘的な同志諸君三を弾固闘い抜いて三里

を基軸として五・六月闘争を体制を構築し、権力闘争へ飛躍力を阻止せよ!!

・ワルシアワ条約機構を環十諸任務における問題を基軸になってきたのであり、それは、階級的構築を劣評運動のなかで戦を地区共闘運動・全国政廳に先議院を競争主義との闘いで、プロ独を競争的に純化しようした党内革新共同主義との闘いで、あつたのである。従つて、軍事語り、非法令をもて遊ぶ諸君は里塙一沖縄を結ぶ赤い糸にふれ事が出来ず、現実の階級闘争か召還しきるのは当然であり、階形成とは無縁であるのだ。又八を中心とする諸君が沖縄をめぐらせてみせた様はカリカチニアでもつた。

沖縄第三次処分を日帝の沖縄奪還とし、日帝の国境線の拡大・侵略して見抜けぬ諸君は、沖縄プロ・タリアートを県民視することにより、本土＝沖縄一本化路線のブリショウ政策レヴェルに転落していくのである。それ故、沖縄国民党は、加選阻止を叫びつつ、その完成ある今春の統一地方選と参院選、支持を送り、あまつさえ理没することにより、国民党化道を走るむ諸君が出来るのは、けだし当然である。我々は、その様な部分の訛別をなし、断固とした闘いの組織しなければならないこと、わいわい会場に結集した同志、新入生の間で熱気をもって意志致され、「

等の会議場に於ける「社会同人」の抗暴化の問題を、その現状と問題点を分析する。また、この問題が社会運動の発展に及ぼす影響についても考察する。

